

「富士登山競走を顧みて」

元富士登山競走事務局担当（昭和 42 年～52 年担当）

柏木 善信

私が富士登山競走に係ったのは、昭和 44 年から 52 年の 8 年間、富士登山競走事務局を担当する、富士吉田市教育委員会社会体育係の職員として勤務した期間でした。

またこの間、富士吉田陸上競技協会事務局としても富士登山競走に係りました。

1 千万人とも 2 千万人ともいわれるわが国のランニング人口ですが、当時はまだまだマイナー競技でした。富士登山競走の参加者も数百人の規模だったと記憶しています。参加者は近県の方が大多数を占め、なかには大会当日編み上げの登山靴を履き、ヤッケにリュックを背負い受付手続きに現れたことに仰天しました。登山競争と聞いたのでマラソンとは思わなかったとのことでした（富士登山競走が広く知られていなかったことか）。

この時期、富士吉田市は一年で一番の賑わいの街になります。市制施行を記念する祭りの参加行事が多く行われることでもあり、富士登山競走はそのメイン行事として実施されます。

私たち事務局は、大会実行委員会の立ち上げをスタートに参加選手の募集・協力団体との調整・打ち合わせと準備を進めます。七月に入ると登下山道の状況及び積雪の状況など、大会の開催を判断するための調査を行います。大会が近づくにともない、審判会議や各係の打ち合わせや物品の調達にまた、資料作りに各関係者の協力を頂きながら、連日連夜遅くまで準備を行い、今年も大会が成功裡に終始することを願いながら、大会当日を迎えることとなります。

大会は多くの方々の支えをいただくことで実施されます。大会を主管し審判を担当していただいた富士吉田陸上競技協会は、登山競走の前日に市内一周駅伝競走を主催し続いて登山競走の大会運営を担っていただき大変なご協力とご苦勞をおかけしました。まだパソコンや携帯電話などが無い時代でしたので、各通過点、ゴールの記録の送信や気象情報などを瞬時に無線で大会本部の市役所への送信を担当していただいた北富士自衛隊通信隊、また大会に事故などおきないよう登山者や山の様子の情報収集を担当した富士五湖周辺のアマチュア無線メンバーの方々、救急を担っていただいた富士五湖消防本部、さらに市連合婦人会をはじめ各種市民団体など枚挙にいとまがない方々の理解と協力を頂きました。

大会当日の私の担当は、選手の着替えなどの荷物を受付で預かり、下山道の五合目で走り終えた選手に渡す荷物の係でした。何百もの荷物を現地に並べ次から次と下山してくる選手に渡し、五合目ロータリー発着のシャトルバスへ誘導するのですが、閉会式（表彰式）に間に合うよう出来るだけ早くバスに乗っていただくよう呼びかけますが、なかなか乗車してくれません。休む時間もなく疲れ切った選手を思うと心が痛む思いがした

ものです。

毎年最終のシャトルバスの出発時間になっても、いくつかの荷物の受け取りがなく残ってしまいます。荷物を受け取っていない選手はまだ下山中なのか、あるいは何かアクシデントがあったのか心配したものです。幸い荷物係が市役所に到達すると必ず全ての荷物を受け取っていただくことが出来、ようやく係の任を果たせたことに安心しました。万全を喫しての大会ではありますが、選手がゴールを終え下山するさいに道を間違え須走口を下山してしまう等、時には思いもよらない状況が発生してしまうこともありました。

そして大会が無事に全て終了し顔なじみの選手と再会を約束して、テントや仮設トイレ等の撤去が終り教育委員会の事務所（当時は下吉田の中央会館）に引き上げて物品等を片付け日付が変わるころに帰宅の途についたと記憶しています。

無事仕事を終え、夜空にうかぶ富士に山小屋の灯がきらきらと光り、夜風の心地よい涼しさが、年齢を重ねた今でも脳裏に残っています。若き日の良き経験をさせていただきました。ふりかえると 70 年を超える大会、美しく偉大な富士山がここにあるかぎり、多くの人々の誇りである富士登山競走が永遠に続くことを願っています。